

(公財)米盛誠心育成会だより 第33号

松方別邸那須萬歳閣を訪問して

理事長 米盛庄一郎



昨年9月に来鹿された松方正義のお孫さん峰雄さんのお誘いで、財団の役員6名で松方別邸那須萬歳閣を訪れました。紅葉真っ盛りで広々とした庭園に1903年明治26年(に建てられた別邸は優雅にそして蔵かな雰囲気満ちたもので、内部の各部屋を案内いただきました。米盛庄司前理事長は18年前に訪問しており、今回もその時の写真を持参しました。別邸は現在一般公開されていませんが、松方家が管理しているテニスコートを隣接しているので学生などが合宿で使用しているそうです。



大久保神社 顕彰碑 (福島県郡山市にて)

左から4人目が峰雄氏



萬歳閣 (松方別邸)

その後はホテルでの会食、地元の酒を堪能して松方家と米盛財団の話題で盛り上がりました。同行していただいた役員の方々も松方家と維新後の日本の歴史に思いをめぐらせることが出来ました。鹿兒島に戻り、前理事長に峰雄さんから頂いた写真を捧げ報告したところです。今後とも財団の運営を役員の皆さまの協力を得ながら進めていきますので、宜しくお願いいたします。

令和6年度奨学生終了式・進路

3月、8名の奨学生が卒業しました。それぞれの進路先でなお一層、ご活躍ください。進路先は次のとおりです。

▽進学・進級：鹿兒島高専専攻科・鹿兒島工学院専攻科・鹿兒島大学工学部へ
▽就職：川田建設株式会社・株クオリティホーム・福岡国際空港株式会社・内村建設株式会社・鹿兒島大学附属図書館へ

令和7年度奨学生採用通知書交付式

所属学校等の推薦書及び選考委員による面接の結果、14名が決定され、6月28日採用通知書の交付式を行いました。
鹿兒島工業高等学校1名、川内商工高等学校2名、鹿兒島工学院専門学校2名、鹿兒島工業高等学校3名、鹿兒島大学4名、同大留学生2名。



令和7年度採用の奨学生の皆さん

米盛理事長から採用通知書の交付と祝辞の後、選考委員の竹元理事からお祝いや励ましの言葉をいただきました。財団発足以来の採用者は、432名になりました。

令和7年度研究助成金目録贈呈式

令和7年度は、新たに次の7つの研究テーマに対して45万円・90万円(計500万円)を助成しました。

1 礼満ハイブリッド准教授(鹿兒島大学院理工学研究科)「鹿兒島の石造文化財の保全に向けた理工学的総合調査」
2 田上聖人助教(鹿兒島大学院理工学研究科)「サンゴ礁混じり土の支持力特性の評価に関する研究」
3 柿沼太郎准教授(鹿兒島大学院理工学研究科)「橋梁状構造物を用いた河川津波被害の低減」
4 平瑞樹助教(鹿兒島大学農学部)「ドローンによる放葉竹材の実態調査と竹炭の農業への有効利用に関する研究」
5 熊谷百慶助教(鹿兒島大学水産学部)「経節カビの種類および組成の違いが産生する化合物に及ぼす影響の解明」



令和7年度採用の研究者の皆さん(前列)

6 早坂央希助教(鹿兒島大学水産学部)「環境制御による高水温耐性魚の開発」
7 松屋純人助教(鹿兒島大学共同獣医学部)「細菌類似IPS細胞を用いたボディスライズの調節メカニズムに関する研究」
7月24日(木)に鹿兒島大学で行われた目録贈呈式では、米盛理事長から「当財団の支援が、皆様の研究のきつかけとなり、将来的にさらに高度なレベルで発展していくことを心から願っている」と挨拶があり、応対した井戸章雄鹿兒島大学長からは「鹿兒島の地勢・文化が育んだ独自の資源と、本学の学術研究を結びつけることで、鹿兒島県の学術産業の発展に大きく寄与することを確信している」との謝辞がありました。

なお、本年度は令和6年度からの継続分の2つの研究テーマに対しても、それぞれ100万円(計200万円)を助成しました。

奨学生からの便り(抜粋)

米盛誠心育成会の奨学生として



○鹿兒島工業高等学校3年
奨学生として採用していただき、今まで以上に大好きな建築の勉強に向き合い、励んでいるように思いました。私の夢は鹿兒島の魅力を世界中に伝えられるような、鹿兒島県を代表する、社会に貢献できる建築家になることです。奨学生として採用していただいたことは、自分自身を見つめ直し、変えられるチャンスと、目標を達成するための勉強ができるチャンスだと思っています。このチャンスを機に、たくさんの方の建築に関わる本などに今まで以上に触れ、たくさんの方の知識を自分のものにしたいし、目標達成のための第一歩として頑張っていきたいです。

○川内商工高等学校3年

私が将来目指している職業は、ウェディングプランナーです。結婚式の全体の雰囲気や温かく、参加したすべての人の笑顔であふれ、人の心に残る、人の一生に関わる大切な瞬間を支える存在になりたいと強く思うようになりました。卒業後は、ブライダル業界について専門的に学ぶ専門学校に進学し、接客や企画、会場設営や衣装に関する知識など実践的な内容をしっかりと身につけたいと考えています。そして将来は、誰かの「一生に一度」の特別な日を、みんなで協力しながら演出することができるようなウェディングプランナーになることが目標です。

ランナーになることが目標です。

○川内商工高等学校3年

私は奨学金を付与していただくことで、今までの以上に部活動にも力を入れることができるようになりました。仲間と協力し助け合う大切さや目標達成に向けた努力、責任感、体力など学んだことをこれからに生かしていきたいです。高校生活最後の大会を悔なく全力で頑張りたい、勉強と部活の両立に力を入れたらと思います。進路先では、保育者としての基本的な知識・技術を学ぶとともに、実際に現場に行き、経験ができる進路先で実践力も身につけたいと思っています。将来は専門知識やスキルを活かして社会に貢献できる立派な大人になれるよう精一杯努力し続けることを誓います。

○鹿兒島工学院専門学校2年

私は現在、建築を学ぶ専門学校生です。将来は、人々の暮らしを支える建物を設計できる建築士になることを目指しています。建築は人の暮らしに直接関わる面白くてやりがいのある分野だからです。建築の勉強は、設計のほか、構造や法規、施工など覚えることがたくさんあります。実習や模型制作の道具代もかかるため、経済的に不安を感じていましたが、この奨学金は私にとって大きな励みであり、安心して学びに取り組むための力になります。今後は、奨学生としての自覚を持ち、日々の授業や課題とこれまでに真剣に向き合ってきたように頑張ります。そして、将来は地域や社会に貢献できる建築士になれるよう努力していきます。

○鹿兒島工学院専門学校2年

私は現在、人々の暮らしに貢献できるような建築士になることを目標にしています。建築は、建物を作るという行為を通じて、そこに暮らす人々の安心や心地良さを支える大切な役割があると思っています。これからの社会には、環境への配慮や防災、地域とのつながりなど多くの課題がありますが、建築の持つ力でのような問題を解決したいと考えています。また、鹿兒島で得た経験や人とのつながりは、私の価値観や進路に大きな影響を与えてくれました。だからこそ、これから学び得る知識や技術を将来、故郷である鹿兒島に還元し、地域の課題解決や魅力の再発見に寄与したいと考えています。

○鹿兒島工業高等学校4年

私は、都市環境デザイン工学科で、土木や建築について学んでいます。将来は建設分野で社会に貢献できる人材となることを目指し、学業に励み毎日です。建設業は人々の暮らしや地域の未来を支えてくれる仕事でありますが、少子高齢化や人口減少、空き家の増加、インフラの老朽化といった課題が様々な地域で問題となっています。そこで、住環境の改善や防災力を高めるインフラの整備をするなど、安心安全に、住み続けられるまちづくりをしたいです。将来、社会に貢献できる人材となるためには、今のうちに多くのことを学び、幅広い知識や経験を積むことが重要だと考えています。

〇鹿児島工業高等専門学校4年

私は、都市環境デザイン工学科で、橋梁や道路といった、人々の生活を支えるインフラに興味があり、将来はその分野で社会に貢献できる技術者になるために勉強をしています。橋や道路は人の移動、物流、災害時の避難路としても重要なインフラで、それを支える設計には安全性や経済性、景観との調和など、さまざまな視点が求められます。そのためさらに学習を深めていきたいです。私は、自分の興味や価値観に正直でありながら、社会の中でどのような役割を果たしたいかをしっかりと考え、一つ一つの選択を大切にしていきたいと考えています。

〇鹿児島工業高等専門学校5年

現在、私は卒業研究に取り組んでいます。論文の調査や実験データ集めには時間も労力もかかりますが、少しずつ成果が見えてくるたびに喜びや達成感を感じています。また、普段の授業や課題にも引き続きしっかりと取り組み、基礎的な学力や知識を習得することにも力を入れています。研究と授業の両立は簡単ではありませんが、学ぶことの楽しさを感じられるようになってきたのは、自分にとって大きな成長だと思っています。奨学金のおかげで金銭的な負担が軽くなることで、学業や課外活動により集中できるようになり、自分の目標に向かって一歩ずつ進んでいる環境が整いました。

〇鹿児島大学4年

私は現在、化学工学を専攻しており、特に鹿児島島の自然資源を活かした地域創生の実現を目標に学びを進めています。温泉の熱効率や火山灰の吸着性に関する研究を通じて、

地域の観光資源、環境課題の解決につながる道を探っています。今までは、学びの多くを「自分のため」という軸で捉えていた部分もありましたが、これからはその学びを「社会や誰かの役に立てる」という視点で磨いていきたいと考えています。今後は、化学工学という専門性をさらに深めると共に、鹿児島島の地域課題に真正面から向き合い、科学と人をつなぐ役割を担える存在を目指していきたいです。

〇鹿児島大学4年

私は現在、大学で化学工学を専攻し、反応工学や移動現象、熱力学、材料設計といった専門分野の知識と実験技術を学んでいます。これまでの学びを通して、「自分の学んだ技術をふるさとの課題解決に役立てたい」という思いを強くしてきました。現在、機能性顔料をナノカプセル化することで透明性の向上に取り組んでいます。これは偽造防止インクなどへの応用だけでなく、農業や環境材料など地域産業とも接点のある分野のため、学内の産学連携プログラムや地域企業との対話の機会を活用し、現場感覚を持った技術者として成長することを目指しています。

〇鹿児島大学大学院1年

私は現在、大学院で医療技術の向上に資する研究で、超高齢社会における慢性疾患や術後の創傷治療をテーマにした研究をしています。これらの研究は、医療現場の課題と密接に関わっており、机上の理論ではなく、現場に根差した課題解決型のアプローチを心がけています。こうした研究は生活費だけでなく、学会発表への参加のための費用など多くの費用が必要となります。本奨学金の支援により、私を含め、学びたいという意欲をもつ若者が、経済的事情に左右されず、より一層研究に専念できる環境を整えることができることは大変ありがたいことであり、感謝しています。

〇鹿児島大学大学院2年

経済的な不安を抱えながらも進学という選択をしている私にとって、この支援は大きな励みであり、心から感謝しております。私が思い描く学生生活とは、夢に向かって努力を積み重ね、日々の中で自らの成長を実感できるような毎日を送ることです。そして、その夢とは、建築士として人々の暮らしに寄り添う空間をつくることです。奨学生として選

ばれたことを誇りに持ち、私の一旦の目標である一級建築士の資格取得に向けて全力で現在、取り組んでいます。今後も、奨学生としてふさわしい姿勢で学びと実践を重ねていきたいと思っています。

〇鹿児島大学2年（中国湖南省）

留学生として鹿児島大学で学ぶことを決めたときから、経済的な不安は常に私の心の中にありました。そのため、この奨学金の決定は私にとって大きな安心感を与えるとともに、これからの学業や研究に対する意欲をさらに高める大きな励みとなりました。これにより、より一層安心して自分の目標や夢に向かって進むことができたと感じました。将来的には大学院への進学を目指し、物理学と情報技術を融合させた最先端の研究に携わりながら、社会の発展に貢献できる研究者になりたいと強く決意しています。

〇鹿児島大学大学院2年（中国北京市）

外国人留学生として日本で生活しながら研究に取り組むことは、経済的にも精神的にも簡単なことではありません。学費や生活費の負担は重く、日々の生活は決して楽ではありませんでした。今回の奨学金は、そのような状況の中で自分を支えてくれる大きな助けとなりました。金銭的な支援だけでなく、「誰かが自分の努力を認めてくれた」という事実が、心の支えにもなっています。今回の支援は、夢の大きな一歩となっています。恩を返すためにも、自分自身が成長し、いずれは他の誰かを支える立場になりたいです。

〇鹿児島大学4年（中国江西省）

継続奨学生からの便り（抜粋）

財団奨学生として一年のはじめに

奨学金をいただいたこの一年は、私にとって非常に意義深い時間でした。学業に集中できる環境を提供していただいたことで、自分の目標に向かって着実に前進することができました。まず、学業面では、奨学金のおかげで経済的な不安を感じることなく、勉強に専念することができ、特に、ゼミでの研究に力を入、れ多くの知識を身につけることができましたことや、奨学金を使って大学の図書館にない専門書や参考書を購入することができました。奨学金をいただいた感謝の気持ちをお忘れません。この一年で得た経験や学びは、私の将来にとって大きな宝物です。

〇鹿児島大学大学院2年（中国湖北省）

私の専門は文化人類学であり、現地のフィールドワークが極めて重要な位置を占めています。現在の研究テーマは、「中国村落地域における地元村民と新住民が共存する地域社会」で、文化人類学の中でも古典的な課題であり、少なからず一年間にわたる継続的な現地滞在が求められ、交通費・滞在費・資料収集費など多大な経費がかかります。米盛誠心育成会の奨学金のおかげで、経済的な不安に煩わされることなく、調査に集中することができました。今後も奨学生としての誇りを胸に、誠実に学問と向き合い、将来的には後進の留学生や若手研究者にとっても励みとなるよう、日々努力を重ねてまいります。

〇県内公立高校へ図書贈呈

今年度は、東京大学の学生が選ぶ「高校生に読んでもらいたい本50選」にも選出された岸見一郎「古賀史健著『嫌われる勇気』」を県内68校に、計154冊を贈呈しました。

10月22日（水）に県教育委員会教育長室で行われた目録贈呈式では、米盛理事長から「本書が、社会の激しい変化の中で、高校生の皆さんが困難を乗り越え、これからの人生を力強く歩んでいく上での『羅針盤』となることを切に願っている」と挨拶があり、対応した地頭所恵県教育長からは「長年にわたり多くの図書を寄贈していただき感謝している。それぞれの高校生がこの本に触れることにより、主体的に自分の人生を考えるきっかけになることを期待している。」との謝辞がありました。



〇研究助成成果報告会開催

12月2日、令和5年度に助成決定したテーマ5件、①奥屋亮助教授（鹿児島大学共同獣医学部）の「鹿児島県に生息するコウモリのウイルス保有状況の調査」②審良善和准教授（同大学理工学域工学系）の「バイオマス燃

焼灰を用いた低炭素型コンクリートの開発と海洋用途への適用性検討」③藤田清貴教授（同大学農学部）の「ラッキョウフラクタン」の構造解析とブレバリオイクス効果の検証」④濱田孝之准教授（同大学理工学域地理学系）の「鹿児島以南の植物に含まれるSAR S-CoV2メタンプロテアーゼ阻害活性天然有機化合物の探索」⑤片平智仁助教（鹿児島高専）の「下水汚泥（脱水汚泥）」と地域バイオマスで調製した下水汚泥肥料の茶栽培への適用」について報告会が開催されました。参加者からは、それぞれの研究に対する質問のほか、「僅か2年間で、しかもそんなに多くもない研究助成金の中で、多くの口頭発表や論文発表がなされている。また、研究の協力者である学生たちも多くの表彰を受けているなど、研究室メンバーが一体となって取り組んでいたという印象を受けた。」などの意見が寄せられました。



研究成果発表会の様子（城山ホテル鹿児島にて）

事務局から

紙面では触れられませんが、昨年12月20日、徳重芳久理事のご逝去に伴い、本年3月4日に松永範芳様が新しい理事に就任されました。松永理事には今後ともよろしくお願ひいたします。

※紙面の都合で「奨学生からの便り」は抜粋で掲載しております。ご了承ください。

事務局連絡先

〒890-0014

鹿児島市草牟田2-1-7

米盛誠心育成会事務局 藤井・水元

☎099-226-0205

E-mail: k-fuji@yong-net.co.jp

